

不運！ロシアン・ロング・ルーレット

木村佳司

スキーオリエンテーリング世界選手権大会 ロング 2007年2月27日 ロシア・モスクワ

器具の故障に泣いた堀江。
0.1秒差に泣いた酒井。
まさかの失格、元木友子。

ロシアン・ルーレット

ワンマンリレー形式で行われたスキーオリエンテーリング世界選手権ロング競技。何度も会場を通過するこの巨大ルーレットで、不運を引き当てたのは日本チームだった。

日本男子の堀江は、レース途中で器具が故障するアクシデントに見舞われ、ややペースダウン。消化不良気味の29位でフィニッシュ。

日本女子は酒井佳子が25位。フィニッシュレーンではUSAのアレクサンドラとつばぜり合いを演じたが、最後の10mほどでアレクサンドラが体ひとつ抜け出し、酒井の25位が確定した。

元木友子は痛恨のパンチ忘れと思われるコントロール不通過の判定があり、失格になってしまった。長い距離を滑り通すうちに意識が飛んでいたのかもしれない。本人はこの結果に相当ショックを受けている様子だ。

白鳥桂子は日頃のトレーニングの成果を充分に出し切り31位。彼女のベストレースを展開した。キックを主体とした白鳥の滑りは、今回の硬い雪とピステ中心のコースとの相性が良いみたいだ。

高橋美和もがんばったが、ナオートラックを得意とする彼女のスタイルと

コースは相性が悪く、35位。



「武石さーん！ポール！ポール！」
前半でポール（ストック）を破損。交換をオフィシャルに呼びかけている。コース途中の会場ではこのように器具の交換が認められている。

堀江守弘

もっと積極的に行ければよかった
スタートして1番から2番に向かう途中で器具が破損しスピードダウンした。

主催者が森の中に設置する器具交換所（デポ）にはスキー板しか預けていなかったため、交換できなかった。途中2回会場を通るコース設定で、器具

交換は会場に戻ってやっとできた。

マススタートに慣れていなくて、出だしからペースを崩してしまった。第1ループが出来なかった。せっかくのマススタートレースだったのに、レースを通じて一人旅が多くレースの波に乗れなかった。レース途中で競り合う選手に北欧の選手が見えなかったので、あまり上位でレースできていないことは判った。

距離は長いが、今までロングを滑り通せる力をつけるようにトレーニングしてきているので体力的な面は問題なかった。

今回は細かいネットワーク設定が多く、オリエンテーリングの地図読みがまだまだだった。

今回のレースの出来には満足していないが、ベストなレースを行ったつものの前回のフィンランド大会の順位を上回ることができている。そのぶん自分の地力が向上していると感じる。

元木悟

いつもと同じような結果に終わった。第3ループで疲れが出て遅くなってしまった。地図の色づかいが今ひとつで、ルートが見えにくいところがあり、これがミスを生発してしまった。

三浦裕司

板は滑った。体力的にも大丈夫だったが、スピードについていけなかった。

ロング競技と言えどもハイスピードレースだった。もっともっと持久戦に持ち込めればもっと戦えた。



一斉スタートで飛び出す三浦裕二。スタートから最初の50mはダブルポール滑走方法に制限される。ロング種目はワンマンリレー形式で行われた。

酒井佳子

1:10,000より小さな縮尺で滑るのは久しぶりで慣れなかった。老眼になってきたのかな？それもあるのか、現在地口ストして大きくタイムを落としてしまった。

元木友子

自分のペースでレースが出来なかった。ペナの要因としてそれもあったのかもしれない。

白鳥桂子

ベストレースだった。レグ上では一人で滑っていたが、コントロールに近くなるとパックになるというパターンで、うまくパックのスピードに乗り、コンスタントなレースができた。すごくいいレースでした。

高橋美和

ロングだったのにあっけなく終わった感じ。まだ体力的に余裕があったのでもっと追い込めば良かった。前回フィンランドでの世界選手権では、ロングはひとりきりでやっと滑りきった感じだったが、今回はまわりにまだ人が居た。



フィニッシュを目指す三浦裕司。

ロング競技と言えども、トライアスロン用に鍛えた三浦の体には短く、速すぎるレース展開だった。

エドワードとタティアナが2勝目

ベストコンディションだった。天候は曇り。気温-8。ちょっと固めで最高の雪質。板はピュンピュン滑るスピードレースになった。

スプリントディスタンスに次いで 1



スキーオリエンテーリング世界選手権 2007 ロング競技の最終コントロールを通過する元木悟 第3ループでさすがに疲れが出てきたようだ。

位になったエドワード（ロシア）は主催者側の予想をはるかに上回る84分でフィニッシュに飛び込んだ。（想定ウイニングタイムは97分）3.4分/kmという驚異的な速さだ。コースは直線距離24.8km、ルート距離29.1km。（主催者発表）

エドワードは第2ループ終了までは4位につけていたが、最終の第3ループで一気に先頭に立ち、圧倒的な差で優勝をもち取った。

男子は主催国ロシアが1位から4位までを独占した。世界選手権のエントリーには制限があり1種目4名までと決まっているのだ。その4名ですべて上位を独占してしまった。

ロング男子結果

1	エドワード	ロシア	1:26:49
29	堀江守弘	日本	1:43:40
54	元木 悟	日本	2:08:33
56	三浦裕司	日本	2:11:20

ロング女子結果

1	タティアナ	ロシア	0:57:22
25	酒井佳子	日本	1:17:25
31	白鳥桂子	日本	1:24:00
35	高橋美和	日本	1:35:48
	元木友子	日本	失格

は参加できず、酒井モリレーに備えて休養をとったため、ミドルに臨む日本選手は少なめとなった。

ミドル男子結果

1	エドワード	ロシア	0:46:56
24	堀江守弘	日本	0:54:09
61	元木 悟	日本	1:09:38

ミドル女子結果

1	タティアナ	ロシア	0:34:47
31	白鳥桂子	日本	0:54:19
33	元木友子	日本	0:55:29
41	高橋美和	日本	1:04:03

ミドル堀江またも24位

ロング種目から1日おいてミドル種目が開催された。堀江はスプリントと同じ24位となり、これが今大会の堀江の最高成績となった。

三浦が仕事の都合でミドルとリレー



男子ミドルの地図。1回地図交換する。（木村佳司）